

# 2010年『タイ騒乱』その時日本人学校は…

バンコク日本人学校（平成20年度派遣）

倉敷市立南中学校 教諭 松尾真治

## 1 活発になる反政府デモ

タイ政府に対してタクシン元首相派の組織「反独裁民主戦線」(UDD)が繰り広げる反政府デモは2010年3月頃から活発になってきた。4月に入るとデモ隊と軍の衝突が起き、死傷者が出る事態となった。(日本人カメラマンが取材中に死亡する事件もあった。)

## 2 緊迫する日本人学校

4月、日本人学校の新年度が始まる頃にはデモ隊が大通りを占拠し、スクールバスの運行に支障が出始めていた。4月下旬から下校時間を早めたり、緊急一斉下校が行われたりして、学級連絡網が頻繁に利用されるようになった。5月中旬、日本大使館と協議のうえ、生徒の安全を考慮して臨時休校が決まった。

## 3 軍による強制排除、夜間外出禁止令

5月19日、ついに軍がデモ隊の強制排除を行った。日本人居住地からも立ち上がる黒煙が見え、銃声や爆発音が聞こえるというかなり緊迫した1日であった。一部のデモ隊は暴徒化し、放火や略奪が多数起こり、夜間外出禁止令も出された。しばらくは食料や水、ガソリンの確保に奔走する毎日だった。

家族を一時帰国または本帰国させる日本企業も多く、日本人学校では、生徒の安否確認や日本に一時帰国する生徒の確認、一時帰国中の受け入れ校への書類作成等に追われた。出会いと別れが多い日本人学校とはいえ、何のお別れも言えないまま離れていく児童・生徒の存在には心が痛んだ。

## 4 バンコクに暮らす中学生が見た「タイ騒乱」

軍による強制排除から数日後、日本人学校が再開され、児童・生徒、職員とも笑顔で再会を喜んだ。私が担当している中3社会科の授業では、この貴重な体験を記録に残そうと、当時の新聞記事を集め、中学生の視点で事実と考察をまとめることにした。大好きな「微笑みの国タイ」でなぜこのような事態が起こったのか、中学生なりに原因と背景を探究し、一生懸命まとめていた。彼らにとって単なる「ショッキングな出来事」で終わらせず、国の政治や社会的背景に興味をもち、平和や安全の大切さや人命の尊さを胸に刻むことにつながったと信じている。



2010.4.13 読売新聞



2010.5.15 読売新聞



社会「タイをもちろはほりタイ」